



JTSU-B
申6号

増加する運転阻害事故の原因究明と真の再発防止対策、ならびにスカニア製車両の構造変更と運転マニュアルの策定に関する申し入れをおこなう！ **その2**

1. 運転阻害事故が急増した2018年度以降の事故件数を年度別・月別に明らかにすること。また2018年度に導入したスカニア車での事故件数についても別途に明らかにすること。

【スカニアの構造について】

2. 平面のサイドミラーを国産バスと共通の仕様(広角ミラー)に変更すること。
3. 保安基準を満たした訓練時の指導運転士用座席(ガイド席)を全車にとりつけること。
4. 国産車も含めた運転席サンバイザーの幅を広くすること。

【訓練について】

5. スカニアを特殊車両と位置づけ、国産バスとの比較や特性(ミラーや死角、ボタン等の装置箇所と機能)の教育を全乗務員におこなうこと。
6. スカニア社製車両の初任・新任運転士訓練は勝田安全運転中央運転研修所を活用し、内容を充実させること。
7. 路線別に危険個所を確定した訓練・教育を強化すること。
8. オートクルーズの取り扱いマニュアルを指導項目に追加すること。

【乗務労働の特殊性を踏まえた環境整備について】

9. コロナ禍によるマスク着用が自律神経の低下と眠気に繋がることが指摘されていることから、2021年夏季に熱中症対策として実施した「着帽省略」をマスク着用中に適用拡大すること。
10. 運転席の背もたれが高いスカニア社製車両運転時、制帽着用によって正しい運転姿勢がとれないことから「着帽省略」とすること。
11. ストレスのかからない制帽とマイク(Bluetooth)を導入すること。
12. マイク放送を最小限にするため、音声合成とビジュアルコーダーによる案内の充実を図ること。
13. 事故発生・災害等の緊急時を想定した携行品(筆記用具、記入用紙、清掃用具等)を全車両に搭載すること。
14. 個人情報に最大限配慮したドラレコ映像の共有・再発防止対策に役立つ活用方法を構築すること。また事故を起こした本人のメンタル・フォローとの両立すること。
15. 2017年度社達第10号「常磐道追突事故における総合対策」を再周知し、全社員で実践できる体制を構築すること。
16. 通勤を踏まえた各支店の休息・休養施設を充実させること。また白河支店における棚倉現地出勤について、通勤距離の短縮を踏まえた交番作成をおこなうこと。

以上

乗務員に出来る最大のコストカットは「事故を起こさない」こと！
「安全で社会に貢献するジェイアールバス関東」の実現を目指そう！